令和４年度 金沢ＭａａＳコンソーシアム 第２回総会

日時：令和４年10月11日（火）15：00～
場所：金沢市文化ホール ３階 大会議室

次　　第

１．開　　会

２．代表幹事挨拶

３．金沢ＭａａＳコンソーシアムロゴマーク発表

４．議　　題

(1)〔報告〕金沢ＭａａＳの施策体系

(2)〔発表〕正会員提案プロジェクト

①株式会社MaaS Tech Japan
②名鉄協商株式会社
③金沢市

５．閉　　会

令和４年度金沢ＭａａＳコンソーシアム第２回総会　出席者名簿

【正会員（30企業・団体）】

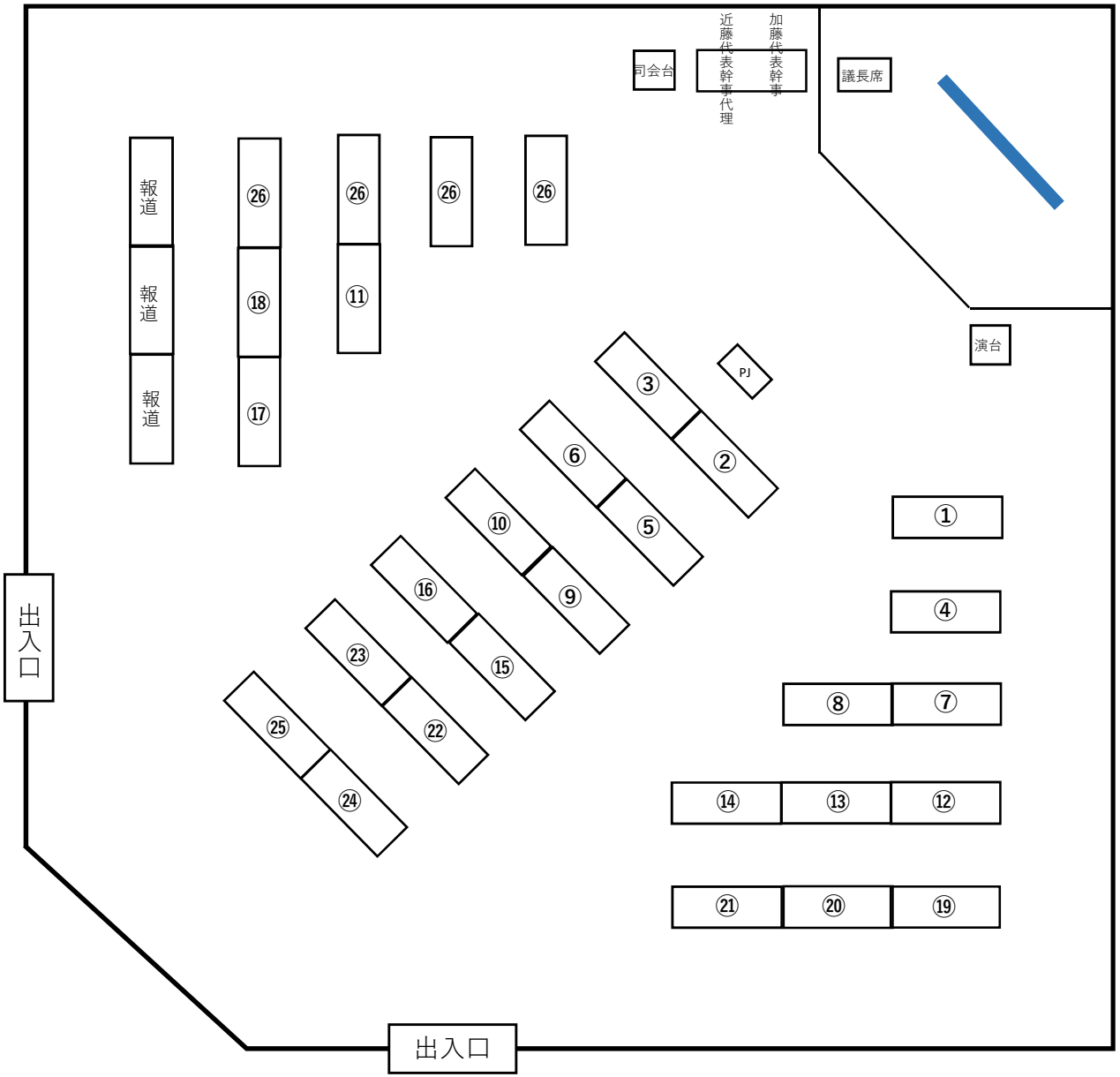
企業・団体名	出席者（役職・氏名）	
IRいしかわ鉄道株式会社	総務企画部総務企画課主任企画員	中　亮介
	総務企画部総務企画課主査	宮本　典子
アイパブリッシング株式会社	企画戦略室プランナー	坂口　陽菜
株式会社アペックス	MaaS事業部部長	渡辺　博玲
一般社団法人いしかわエネルギーマネジメント協会	エネルギー合理化推進員	澤田　浩士
一般社団法人石川県タクシー協会	副会長	藤田　和弘
	専務理事	宮﨑　芳信
石川ダイハツ販売株式会社	常務取締役	岡田　博喜
	課長代理	田中　茂
株式会社ヴァル研究所	チームリーダー　※WEB参加	豊田　博樹
	一般　※WEB参加	尾崎　弘太郎
金沢エナジー株式会社	地域エネルギー企画部企画課マネージャー	長友　幸司
	地域エネルギー企画部企画課リーダー	野村　泰通
一般社団法人金沢市観光協会	副理事長	八田　誠
株式会社計画情報研究所	取締役	米田　亮
	取締役	北原　豪
次世代型交通システム推進協議会	北陸SDGs総合研究所代表理事	武田　幸男
	損害保険ジャパン㈱金沢支店	高川　愛可
ジョルダン株式会社	戦略企画部（兼）企画デザイン部統括部長　※WEB参加	岡田　円
	戦略企画部（兼）企画デザイン部サブマネージャー　※WEB参加	仁平　芳子
SWAT Mobility Japan株式会社	ソリューションデリバリースペシャリスト　※WEB参加	滝本　一馬
東京海上日動火災保険株式会社	金沢支店営業課課長	久保田　祥之
	金沢支店金沢中央支社支社長代理	徳永　光則
株式会社ドコモ・バイクシェア	代表取締役社長　※WEB参加	武岡　雅則
	取締役　※WEB参加	清水　貴司
	法人営業部パートナービジネス担当課長　※WEB参加	土谷　謙太
	法人営業部パートナービジネス担当　※WEB参加	上田　岳史
なるわ交通株式会社	課長	森　智弘
	チーフ	道下　泰臣
西日本ジェイアールバス株式会社〔幹事・監事〕	北陸支店 支店長	大久保　範繁
西日本電信電話株式会社		欠席
西日本旅客鉄道株式会社〔幹事〕	デジタルソリューション本部部長	神田　隆
	金沢支社地域共生室営業課	柴山　莉絵子
株式会社日本海コンサルタント	社会事業本部計画研究室担当室長	片岸　将広
	社会事業本部まちのり事務局長	井上　雅
BIPROGY株式会社	北陸支店支店長	平原　賢一
	戦略事業推進第二本部	和田　英信
富士通Japan株式会社	北陸支社第一ビジネス部	中谷　太一
	北陸支社第一ビジネス部	竹内　志旦
株式会社ホクリクコム	情報システム事業部部長	鈴見　祥夫
	情報システム事業部係長	川原　康範
北陸鉄道株式会社〔代表幹事〕	取締役企画開発部長	加藤　大勝
	企画開発部次長	冨士登　勝二
北陸電力株式会社	石川支店総務部総務労務チーム統括課長　※WEB参加	浜崎　秀樹
株式会社北國銀行	カード部部長	前川　治樹
	法人部法人グループグループ長	宮野　雅明
株式会社MaaS Tech Japan	取締役CSO/プロダクト開発統括	清水　宏之
	プロダクト開発シニアマネジャー	冨増　直樹
名鉄協商株式会社	パーキング北陸営業部部長	白木　明人
	パーキング北陸営業部主任	髙橋　恭生
レシップ株式会社	金沢営業所所長	大森　正和
	金沢営業所担当	上杉　洋平
金沢市〔代表幹事代理・事務局〕	都市政策局長	新保　博之
	都市政策局担当次長(兼)交通政策課長	近藤　陽介
	都市政策局交通政策課担当課長	浅野　成貞
	都市政策局交通政策課担当課長(兼)課長補佐	中川　宏希
	都市政策局担当交通政策課係長	牧野　さやか
	都市政策局交通政策課主査	綿谷　侑
	都市政策局交通政策課主査	佐藤　恭央
	都市政策局歩ける環境推進課長	山田　敏之
	都市政策局歩ける環境推進課主査	笠間　彩
	都市政策局歩ける環境推進課主事	平　至弘
	総務局デジタル行政戦略課担当課長補佐(兼)係長	東﨑　志伸

原則、五十音順

【オブザーバー】

企業・団体名	出席者（役職・氏名）	
国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所	調査第二課長	戸部　啓太朗
国土交通省北陸信越運輸局石川運輸支局	企画調整担当首席運輸企画専門官	打越　利子

令和４年度 金沢MaaSコンソーシアム 第２回総会
座席表



① ㈱MaaSTechJapan	② IRいしかわ鉄道㈱
③ アイパブリッシング㈱	④ 名鉄協商㈱
⑤ ㈱アペックス	⑥ (一社)いしかわエネルギーマネジメント協会
⑦ (一社)石川県タクシー協会	⑧ 石川ダイハツ販売㈱
⑨ 金沢エナジー㈱	⑩ (一社)金沢市観光協会
⑪ ㈱計画情報研究所	⑫ 次世代型交通システム推進協議会
⑬ 東京海上日動火災保険㈱	⑭ なるわ交通㈱
〔幹事/監事〕 ⑮ 西日本ジェイアールバス㈱	〔幹事〕 ⑯ 西日本旅客鉄道㈱
⑰ ㈱日本海コンサルタント	⑱ BIPROGY㈱
⑲ 富士通Japan㈱	⑳ ㈱ホクリクコム
〔代表幹事〕 ㉑ 北陸鉄道㈱	㉒ ㈱北國銀行
㉓ レシップ㈱	〔オブザーバー〕 ㉔ 金沢河川国道事務所
〔オブザーバー〕 ㉕ 石川運輸支局	〔代表幹事代理/事務局〕 ㉖ 金沢市

DEZAKEN　橋本　謙次郎　デザケン

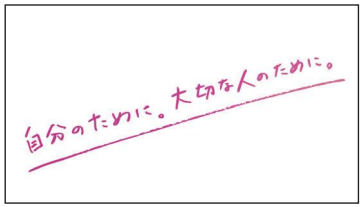
1967　石川県生まれ。金沢美術工芸大学商業デザイン卒。
1992　広告会社　第一企画（現ADK）入社　クリエイティブ局デザイナー、
金沢のデザイン専門学校講師を経て、
2001　橋本謙次郎デザイン制作室　として独立
2013　「デザケン」の名称で活動開始。　現在に至る。

□ 主な受賞歴

石川県デザイン展　最高賞　ほか受賞多数。
金沢ADC（アートディレクターズクラブ）
グランプリ（2016、2018）　ほか受賞多数。
2017　石川デザイン賞
2021　世界ポスタートリエンナーレ富山　入選
2021　新聞広告クリエーティブコンテスト 特別賞

◎金沢市　ワクチン接種推進キャンペーン（2022.5～）

一番直近のお仕事です。
ポスター、新聞広告、デジタルサイネージ、SNS 動画など
幅広く展開しました。



□ ロゴマーク　実績

金沢市　「いいね金沢」

金沢市俵芸術交流スタジオ

金沢市商業活性化センター
（金沢TMO）

JCI2015世界会議・金沢

犀桜小学校　校章

兼六小学校　校章

はくさん信用金庫

直源醤油　ブランドロゴ

金沢ＭａａＳの施策体系
（令和４年８月策定）

金沢MaaSの施策体系の整理が必要な背景

2022年８月

金沢MaaSにより目指す社会

IoTやAIが可能とする新たなモビリティの導入を含め、多様な移動手段による移動を、
シームレスに1つのサービスとして提供することにより、全ての市民等が自由、かつ、最適に移動できる状態

金沢市次世代交通サービスあり方検討会の提言書（令和３年２月）

現在の状況

① 人口減少・超高齢化やゼロカーボンの推進など、持続可能な社会の実現のため、
歩行者と公共交通を優先したまちづくりの重要性は高い

② さらに、**コロナ禍で激減した公共交通の利用回復を図る**ためにも、ソフト・ハードの施策を総動員した公共交通の
利便性向上は喫緊の課題

公共交通に関する現状認識

利用者目線で「出発してから目的地に到着するまで」の移動の利便性向上の余地がある

官民連携のもと、多分野のプレーヤーが協力して課題解決をする必要がある

MaaSのさらなる推進が必要

取り組む施策を具体化

施策体系の整理

第１段階

① 「のりまっし金沢」を市民や来街者の**移動のコンシェルジュとなるポータルサイト**とする

② デジタル交通サービス「のりまっし金沢」の機能強化を図り、「いつでも・どこでも」、「キャッシュレス」という利点を活かした**公共交通の利用回復**、そして**「移動サービスのサブスク的利用」の普及**を図る

第２段階

① 利用者データの利活用を図るプラットフォームの構築、支払システムの検討

② 多分野連携（市民向けの総合アプリとの連携等）を図る

金沢MaaSの施策体系

Ⅰ　交通まちづくりの目指す姿

- まちなかを核にネットワークでつなぐまちづくり
- 歩行者と公共交通優先のまちづくり

⇒

①まずは、公共交通の利用回復（コロナ禍により減少した利用者を取り戻す）
②次に、自家用車に過度に依存しない交通まちづくりの推進
〔 KPI：公共交通分担率10%（2032年）、まちなかの自動車分担率40%（2032年）〕

Ⅱ　実現するための手段　MaaSの視点から

＜基本情報＞

①金沢MaaS　ロードマップ

	短期　2021～2022	中期　2023～2026
全体	スモールスタート	本格実装
組織	コンソーシアム設立	プラットフォーム構築
データ	活用策検討	政策実施・政策連携
設計	ユニバーサルデザインへの対応	
アプリ	のりまっし金沢→機能拡大→社会実装	
連携	商業連携　→　観光連携	
新たなモビリティ	連節バス検討 → 実験 → 導入・拡大 自動運転車両検討 → 実験 → 導入・拡大 AIオンデマンド交通実験 → 導入・拡大	
参加	体験・シンポジウム・モビリティマネジメント	

②MaaSにより解決すべき課題へのアプローチ

- 様々な企業・団体が
  社会をよりよくする取組を協力して行い、
  メリットを享受できる環境を整備する
- 公共交通の利便性向上を通じて
  行動変容を促す
- 利用者の個性に応じたインセンティブを
  付与し行動変容を促す

〔行動変容〕
自動車利用 ⇒ 公共交通利用
まちなかへの来街機会、滞在時間増加
まちなかを歩いて回遊
ピーク集中 ⇒ オフピーク時利用　など

③解決すべき交通課題

1. 交通ネットワークの再構築
   新しい交通システム、バス路線再編、鉄道の充実
2. 新しい生活様式に対応した移動需要の獲得
   コロナ禍で減少した利用者を取り戻す
   交通結節点整備、P＆R推進、バリアフリー推進
3. 交通機能の連携強化
   交通案内、バスレーン、渋滞緩和、タクシー環境
4. 歩行者と公共交通の優先
   歩けるまちづくり、自転車利用環境、駐車場配置
5. 広域・圏域交通による交流の推進
   新幹線、金沢駅、金沢港、都市圏ネットワーク

＜具体の取組＞

④金沢MaaSに関連した具体の取組を開始したプロジェクト

A　公共交通利便性の向上
- デジタルチケットの企画乗車券の拡大〔鉄道線各種フリー乗車券、金石・大野周遊シャトルバス〕
- ネイティブアプリ版のリリース

B　多分野連携の推進
- のりまっし金沢＋い～じ～金沢パスの連携〔クーポンによる移動需要創出＋公共交通利用需要創出〕

C　新たなモビリティの実装
- AIオンデマンド交通の実装〔北部地域における試験運行〕

D　MaaS等を活用したモビリティ・マネジメント
- 石川線・バスの乗継円滑化実験〔石川線各駅－香林坊が8時間乗降自由な乗車券で乗継抵抗を軽減〕

E　キャッシュレス化の推進・データ利活用
- のりまっし金沢＋い～じ～金沢パスの連携〔会員属性情報、移動情報、クーポン利用情報等の分析〕
- 城下まち金沢周遊バスへの全国共通交通系ICカードの搭載

⑤今後優先して検討すべき事項

A　公共交通利便性の向上
〔企画乗車券開発、経路検索・運行情報・他の便利なサービスの案内・誘導、情報発信等のりまっし金沢を活かした取組、P&R駐車場との連携〕

B　多分野連携の推進
〔お帰り乗車券のデジタル化、観光MaaSとの連携、観光・買い物スタンプラリー等〕

C　新たなモビリティの実装
〔AIオンデマンド交通の実装、自動運転車両の実験・導入、連節バスの実験・導入等〕

D　MaaS等を活用したモビリティマネジメント
〔MaaS・SNSを活用したモニター実験やキャンペーンの実施等〕

E　キャッシュレス化の推進・データ利活用
〔支払方法の高度化、のりまっし金沢等で取得した各種データと他分野のデータによる交通課題の解決等〕

F　プラットフォーム
〔API連携やデータ集約のためのプラットフォーム検討等〕

金沢MaaS　ソフトウェア・アプリの展開方法

各取組については、関係者の合意を得たものではない（実施年月の記載があるものを除く）

第1段階　のりまっし金沢の機能強化を進める
将来像：金沢における移動のコンシェルジュ＝交通における市民必携アプリを目指す

第２段階　プラットフォーム、支払システムの検討
市民総合アプリとの連携

短期（~R4.9）
移動のコンシェルジュ機能強化（第１弾）
すぐにできる機能強化・連携を迅速に実施

【機能強化・連携の考え方】
⇒３つの取組（以下の１～３）により、
のりまっし金沢の利便性を向上
データ分析により事業検証及び企画乗車券の検討などを進める

１．交通とまちなかクーポンの連携（5月）により、外出行動を促し、公共交通利用を促進する

２．石川線・バスの乗継円滑化実験（7月）により、鉄道とバスの乗換抵抗を軽減し、交通行動の変容を促す

３．のりまっし金沢のネイティブ化（9月）に合わせ、トップページのアイコンを増やし、便利な交通サービスへのリンクを増やす（コンシェルジュ）

■経路検索
北鉄時刻表検索、WESTER、経路検索サービス、バス停位置情報

■運行情報
ふらっとバスロケーションシステム
交通事業者各社の運行情報

■他の便利なサービス
まちのり、Kパーク、P&R駐車場、タクシー等

４．データ連携・利活用
のりまっし金沢、い~じ~金沢パスのデータ連携・利活用

中期（R4~R5年度）
移動のコンシェルジュ機能強化（第２弾）
企画乗車券の開発、事業者間連携

【機能強化・連携の考え方】
⇒複数の交通事業者間の協議を進め、企画乗車券、情報発信、多分野連携を進める

■企画乗車券
サブスク的な企画乗車券の販売（平日・昼間時専用、観光24時間、お帰り乗車券、シルバー定期、鉄道線＋バスフリー券、1~7日間券、月額固定料金等）

■デジタル回数券
ふらっとバスデジタル回数券（10月）

■事業者間連携
まちのりとの共通乗車券販売、決済
鉄道・バス等との共通乗車券販売
路線バス等との連携（定期・回数券販売）
タクシーと連携（サブスク料金への参加）

■情報発信
プッシュ通知を使った効果的な発信
各社バスロケーションシステムによるリアルタイムな運行情報提供

■多分野連携
観光・買い物スタンプラリーの実施
観光MaaSとの連携（周遊券、セット券）
かなざわ子育てすまいるクーポンとの連携

■データ連携・利活用
まちのりやふらっとバス、路線バスなどのデータの連携・利活用

長期（R6年度以降）
MaaSの進化
プラットフォーム構築等

【考え方】
⇒金沢MaaSアプリの進化方法の検討
支払システム、市民総合アプリとの連携

■アプリ機能のプラットフォーム
API連携やデータ集約のためのプラットフォーム検討（検索、予約、決済）

■データ利活用のプラットフォーム
モビリティデータの連携・活用プラットフォーム検討（利用者属性、利用状況）

■交通系ICカードシステム
全国共通交通系ICカードの相互利用や片利用方式のほか、二次元コード決済等の多様なキャッシュレス化
モバイル版の交通系ICカードの活用
交通系ICカードとの連携（交通系ICカードと商業・交通ポイント等）

■多分野連携
民間のポイントサービスとの連携

移動のコンシェルジュ機能強化（第１弾）
すぐにできる機能強化・連携を迅速に実施

〔イメージ〕

経路検索（各案内サービスへリンク）
●WESTER（経路検索）
ドアtoドア経路検索に便利

●乗換案内サービス
全国の様々な公共交通の経路検索
〇駅すぱあと
〇ジョルダン

北鉄時刻表（北鉄HP（スマホ版）へリンク）
●北鉄時刻表アプリ（9月末廃止予定）
ユーザーの利便性を確保

※Webアプリの場合
タブではなくアイコンに「北鉄時刻表」
を追加

運行情報（各交通事業者へリンク）
●北陸鉄道グループ
北鉄HP（スマホ版）
●金沢ふらっとバス
ふらっとバスロケーションシステム
●JR西日本
JR西日本列車運行情報
●西日本JRバス
西日本JRバスHP
●IRいしかわ鉄道
IRいしかわ鉄道HP

その他便利機能
●まちのり（シェアサイクル）
アプリのダウンロードはこちら
使い方はこちら
●パーク＆ライド駐車場
休日に停められる駐車場はこちら
利用方法はこちら
●タクシー
配車アプリの使い方・対応する会社
配車アプリのダウンロードはこちら
●モニター、キャンペーン情報
公共交通をお得に使えるモニター
募集、キャンペーン情報はこちら

大項目	中項目	取組事項（短：短期　中：中期　長：長期　　●取組中　〇アイデア　△目的との整合性を要検討）
Ａ 公共交通 利便性の 向上	ア プ リ	●ネイティブアプリ版リリース：９月 （利点：反復利用、動きの速さ、乗車券画面の表示・非表示の操作性、通知機能） 中〇ネイティブアプリの機能強化（複数乗車券一括購入、クレジットカード番号保存、交通系ICカード残高確認）
	企画乗車券の拡大	●北陸鉄道等の企画乗車券の拡大 （鉄道線全線１日フリー乗車券、土日祝限定１日フリーエコきっぷ、金石・大野周遊シャトルバス） ●石川線・バスの乗継円滑化実験：７月 中〇サブスク的な新しい企画乗車券の販売（平日・日中６時間券、平日10-16時フリー乗車券、観光24時間券、 シルバー定期、鉄道線＋バス１日フリー乗車券、１～７日間乗車券、月額固定料金　等）
	経路検索	短〇北鉄時刻表検索と連携（時刻検索、接近情報、お気に入り機能） 短〇WESTERとの連携（ドアtoドア経路検索＝まちのり、ふらっとバス検索可能） 短〇経路検索サービスとの連携（WESTER、駅すぱあと、ジョルダン等） 短△駐車場案内システムとの連携 中〇静的GTFS化の推進
	運行情報の提供	短〇バスの運行状況、接近状況の情報提供（北鉄グループ） ●ふらっとバスロケーションシステムと連携 中〇各社バスロケーションシステムによるリアルタイムな情報提供（GTFSリアルタイムへのシステム移行） 中〇通知機能を使った遅延情報等の提供（ネイティブアプリのプッシュ通知を交通事業者、市が共同で利用）
	他の交通モードとの連携	短〇Ｋパークと連携（申請） 短〇金沢市パーク＆ライド駐車場との連携（申請） 短〇タクシー配車システムとの連携 中〇「まちのり」と連携（バスとのセット料金） 中〇金沢市パーク＆ライド駐車場との連携（経路検索でのP&R駐車場表示、P&R駐車場を起点とした経路案内） 中〇鉄道・バス等と連携（バスとのセット料金） 中〇路線バス等と連携（企画乗車券（定期、回数券等）） 中〇タクシーと連携（サブスク料金への参加、１日乗車券利用者への割引等）
Ｂ 多分野連 携の推進	商　　業	●のりまっし金沢でクーポンの提供：５月 中〇お帰り乗車券のデジタル化
	観　　光	●WESTER観光スタンプラリー 中〇観光・買い物スタンプラリーの実施 中〇観光MaaSとの連携（観光客向け１日周遊券、入場料セット等）
	生　　活	長〇交通系ICカードとの連携（交通系ICカードと商業・交通ポイント） 長〇民間ポイントサービスとの連携
	福　　祉	中〇かなざわ子育てすまいるクーポンとの連携（子育て支援課）

大項目	中項目	取組事項（●取組中　○アイデア　△目的との整合性を要検討）
Ｃ 新たなモビリティ		●AIオンデマンド交通の実装（北部地域）＋MaaSアプリでの予約、決済 中○自動運転車両の社会実験、実装 中○連節バスの社会実験、実装
Ｄ MaaS等を活用したＭＭ	ｷｬﾝﾍﾟｰﾝ	●のりまっし金沢でクーポンの提供：５月（再掲） ●石川線・バスの乗継円滑化実験：７月（再掲） 中○モニター、キャンペーンの実施 中○エコ通勤専用乗車券等の販売
	SNS 情報発信	●公共交通を身近に感じる情報発信 ●年末年始、GW等の混雑期の公共交通利用を促すメッセージ発信
Ｅ キャッシュレス化の推進・データ利活用	支払方法の高度化	短○城下まち金沢周遊バスへの全国共通交通系ICカードの搭載 長○全国共通交通系ICカードの相互利用や片利用 長○タッチ決済、二次元コード決済等 長○モバイル版の交通系ICカード
		●モビリティデータの利活用 短○のりまっし金沢データの利活用（会員属性、購入状況、クーポン利用、GPS移動データ、文化施設割引） 短○い～じ～金沢パスデータの利活用（会員属性、ICa-ID、クーポン利用、GPS移動データ） 中○ICaデータの利活用（バス停OD、路線区間別利用者数、時間帯別利用者数、利用頻度、平休利用割合等） 長○MaaSモビリティデータの一体化
Ｆ プラットフォーム		長○API連携やデータ集約のためのプラットフォーム検討（検索、予約、決済） 長○モビリティデータの連携・活用プラットフォーム検討（利用者属性、利用状況）

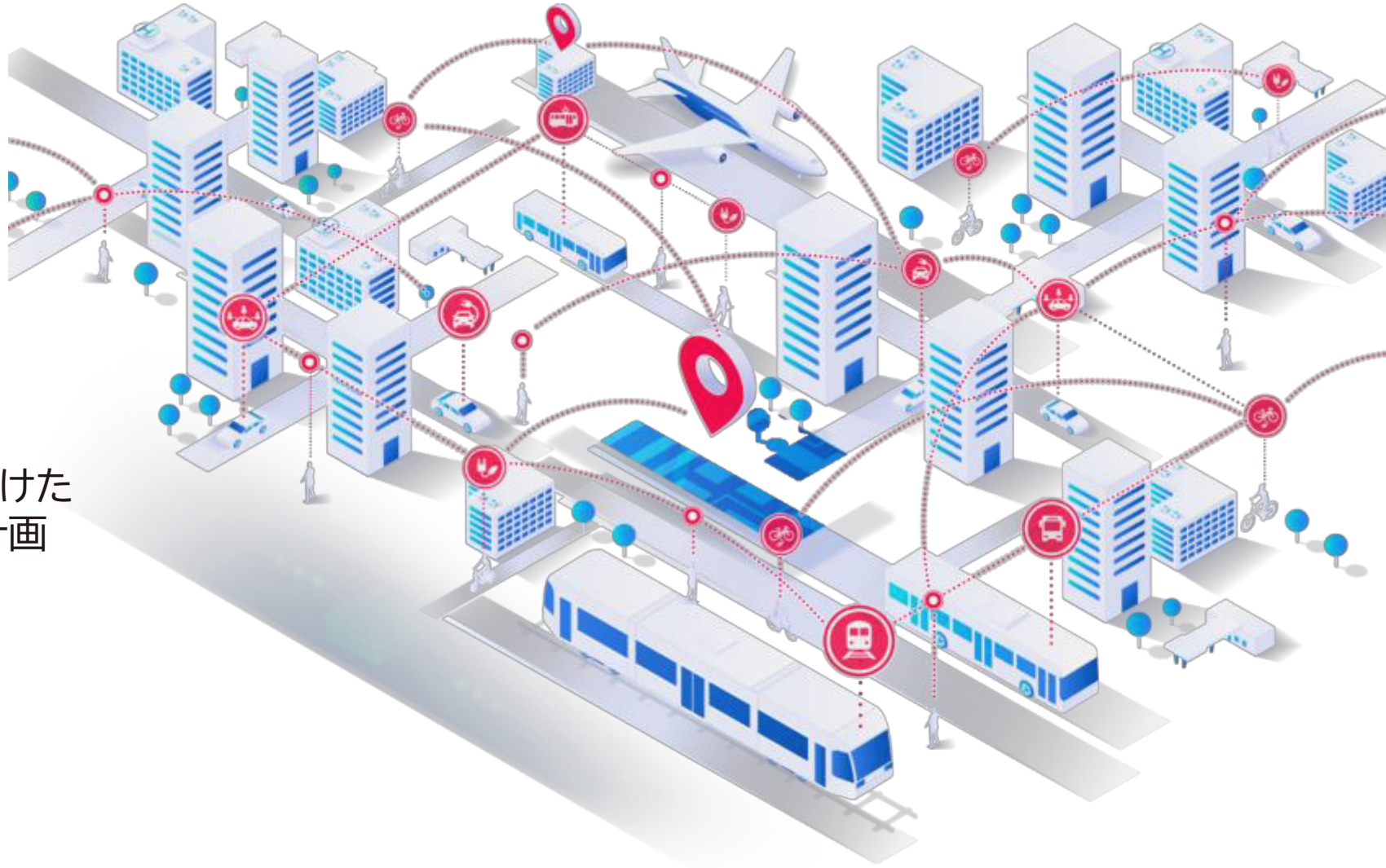
持続可能な交通ネットワーク構築に向けた
データ連携基盤の検討

【㈱MaaS Tech Japan】

金沢MaaSコンソーシアム事務局　御中

MaaS Tech Japan

持続可能な交通ネットワーク構築に向けた
データ連携基盤の検討事業の事業計画



2022年10月

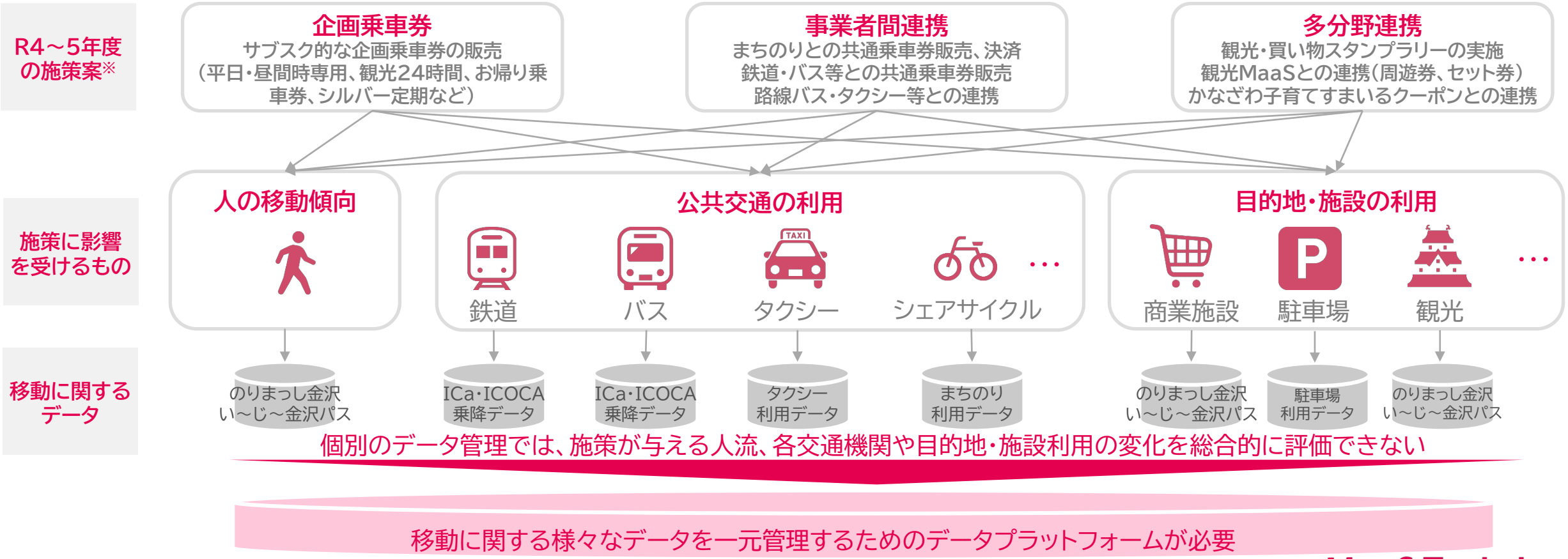
目次

1. 金沢MaaSにおける課題（弊社認識）
2. データ連携とデータ活用のためのプラットフォーム「SeeMaaS」
3. 金沢MaaSコンソーシアムでのSeeMaaSの活用イメージ
4. SeeMaaSで提供する分析メニュー例のご紹介
5. 想定スケジュール
6. 作業部会構成案と役割分担
7. プロジェクトに関する留意事項

1. 金沢MaaSにおける課題（弊社認識）

金沢MaaSでは様々な施策を通じて公共交通の利用促進を実施されており、今後はのりまっし金沢の機能強化を行い、各交通事業者を連携した企画切符の販売や商業・観光施設との多分野連携の施策を検討されています。

これらの施策は複数の公共交通や目的地の利用に影響を与え、それらを総合的に評価し次の施策へ活かすためには、移動に関する様々なデータを一元管理するためのデータプラットフォームが必要と考えます。



※ 03_金沢MaaSの施策体系.pdfより抜粋

2. データ連携とデータ活用のためのプラットフォーム「SeeMaaS」

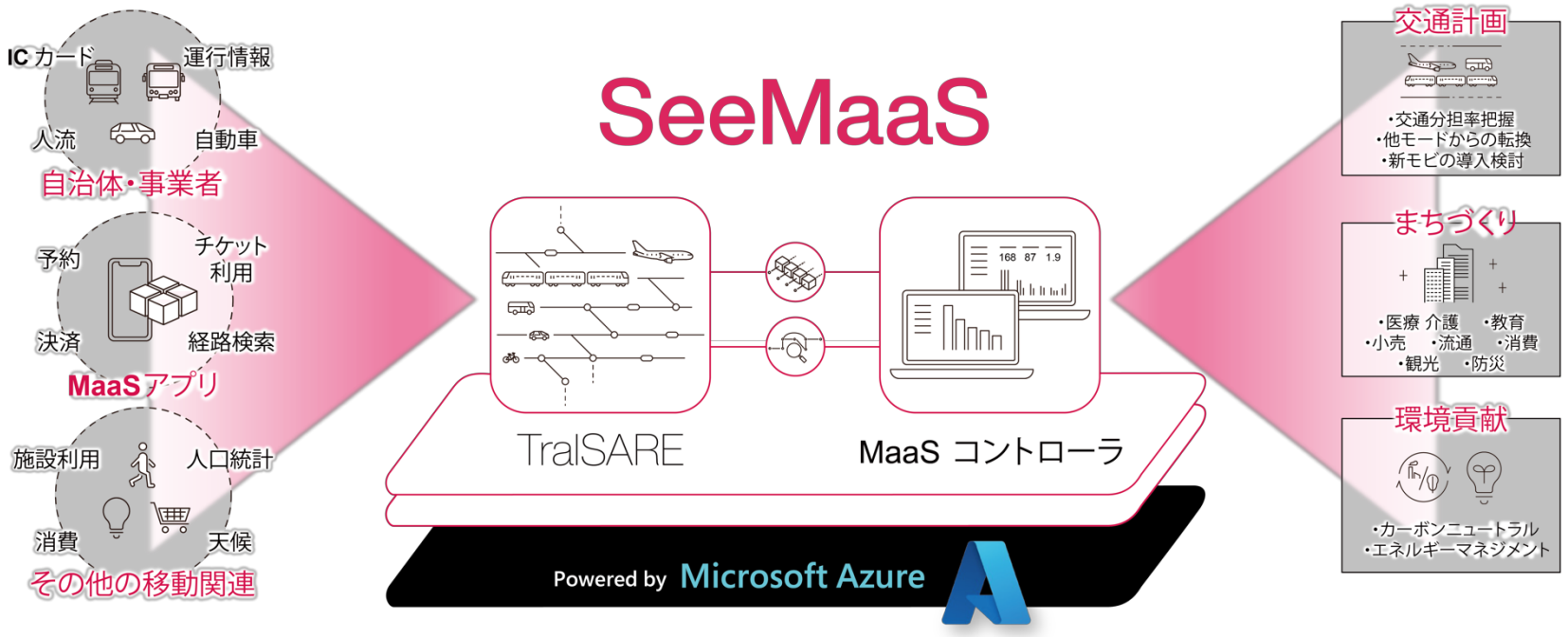
弊社のプロダクト「SeeMaaS」は、移動に関わる様々なデータを統合・可視化し、地域交通の現状・課題の把握や施策のモニタリングと効果検証を実現します。

Data Collection（データ収集） → **Data Store**（データ連携・統合） → **Data Monitoring & Analytics**（データ分析・モニタリング） → **Actuation**（施策への連携）

移動に関わる様々なデータをつなぎ

SeeMaaS で データを統合し可視化を実現

交通・環境・観光などの取り組みを移動データで促進



3. 金沢MaaSコンソーシアムでのSeeMaaSの活用イメージ

取得可能な移動関連データの統合から始めてSeeMaaSを用いてコンソーシアム内で現状把握・共有を行い、各分野で強みをもつ事業者が連携して施策を検討していくことにより、効果的な施策実施が可能と考えます。

データ活用プロセスにおけるSeeMaaSの対応範囲

SeeMaaS データ統合により総合的な現状把握・分析が可能

データの取得・統合

- ICaデータ 路線バスデータ まちのりデータ
- のりまっし金沢 い～じ～金沢パスデータ
- 外部データ（人流、自動車走行データなど）

現状把握分析

- 各公共交通機関の利用状況の把握
- 各地域の移動需要、駅・病院など主要施設へアクセス性の把握
- 観光施設・商業施設への周遊状況の把握

施策の検討実施

- 公共交通が使われていない時間帯の格安企画切符の発売
- 移動需要がある地域へのバスルート延伸、ダイヤ増便
- 周遊ルートを踏まえたスタンプラリー企画、新規モビリティの設置

SeeMaaS モニタリングにより継続的な施策改善を実現

効果検証

- モニタリング・効果検証

金沢MaaSコンソーシアムで議論・実施すること

① コンンソーシアム参加の事業者で保有データを出し合い、SeeMaaSにデータを投入、データ統合を行う

② SeeMaaSを使って「いつ」「どこに」「どのような」移動に関する問題があるかを特定、共有する

③ コンソーシアム参加の事業者が協業して、②で捉えた問題に対する施策を検討、実施する

④ SeeMaaSを使って実施した施策が想定通りの効果をあげているかモニタリング
効果が出たものは範囲や期間を広げて再度実施、効果が出なかったものはコンソーシアム参加の事業者で原因を検討し、次の施策へ繋げる

4. SeeMaaSで提供する分析メニュー例※のご紹介(1/2)

モニタリング
ダッシュボード

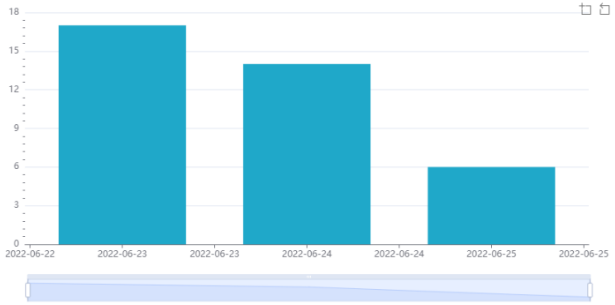
複数の公共交通利用データを連携することで、施策に対する各公共交通への影響が一目で把握できます。

バスの利用者データ

トリップ数
37
回

利用者数
14
人

トリップ数　推移



ふらっとバス、路線バス等の
利用データ

＋

シェアサイクルの利用データ

トリップ数
11
回

利用者数
4
人

トリップ数　推移

シェアサイクル(まちのり)
利用データ

＝

施策モニタリング

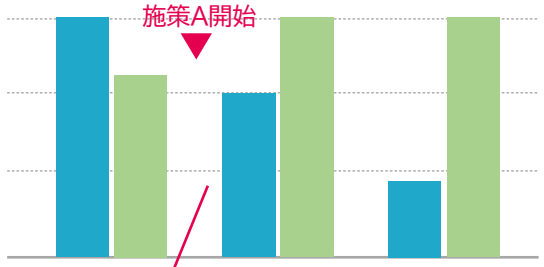
トリップ数
37
回

利用者数
14
人

11
回

4
人

トリップ数　推移



施策Aの結果、バス利用は減ったが、
シェアサイクルの利用は増加

※　現時点で想定される分析メニュー例です。今後、プロダクト仕様の変更により分析内容やデザインが変更される可能性があります。

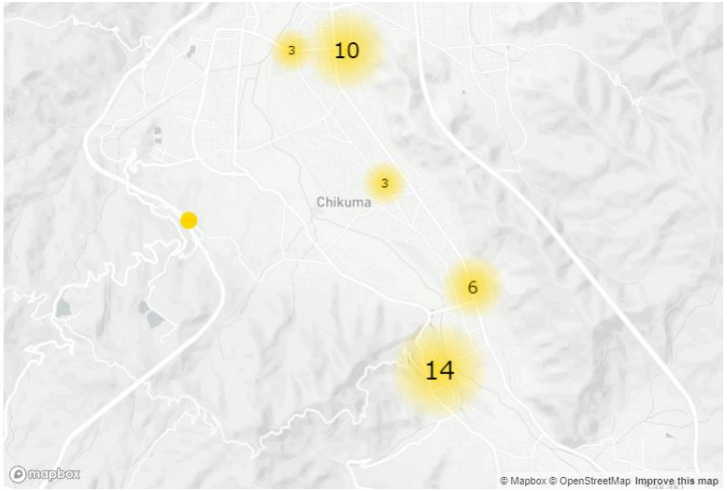
MaaS Tech Japan

4. SeeMaaSで提供する分析メニュー例※のご紹介(2/2)

潜在需要分析

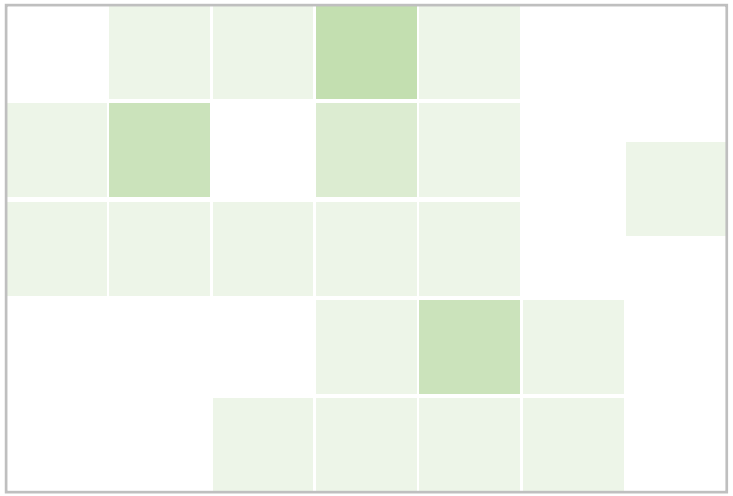
移動需要が多い地域に対して、公共交通(バス)での来訪が行われていない場所・時間帯を明らかにし、取り逃しの可能性がある潜在需要を特定します。

公共交通の乗降者数データ



まちのり、ふらっとバス、路線バス等のODデータ

移動需要データ(滞在量の差分)



混雑統計データ(外部データ)

潜在需要分析

移動需要が多いにも関わらず、
公共交通での乗降が少ない地域

※ 現時点で想定される分析メニュー例です。今後、プロダクト仕様の変更により分析内容やデザインが変更される可能性があります。

5. 想定スケジュール

	令和4年度						令和5年度
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
イベント	第2回総会 ▼	作業部会 ▼	作業部会 ▼	作業部会 ▼	作業部会 ▼	作業部会 ▼	
フェーズ	**準備フェース** （プロジェクトの目標設定、SeeMaaSを用いた単一交通データでの可視化）		**試行フェーズ** （分析課題の検討、複数の交通データの可視化、データ連携の進め方・ルール検討）				**活用フェーズ** （複数の交通データ・外部データを用いた可視化・モニタリング、継続的運用のため仕組み検討）
取組内容	• 作業部会での取組の理念や目標について参加事業者間で議論 • ふらっとバス等金沢市保有のデータをSeeMaaSで可視化・分析 →SeeMaaSでどのような可視化・分析が可能かを把握 • 次フェーズに必要なデータの議論 →単一データでの可視化・分析の限界を確認し、他のどのようなデータを投入すれば、より良い分析ができるか議論		• 分析課題や分析方針の議論 →複数の課題を整理し優先順位を決定 • 複数モビリティのデータをSeeMaaSで可視化・分析 →交通データの可視化・分析でわかること、わからないことを把握し、今後、人流データなど外部データも含め、必要なデータ・分析方法を議論 • 来年度以降を見据えたデータ連携の進め方・ルール案を議論 • 今年度の取組総括と来年度取組の具体化				• 複数のモビリティデータ、外部データによる可視化・分析を実施し、施策案を議論 • のりまっし金沢を中心としたMaaS施策における各公共交通機関の利用状況モニタリング、および結果について議論 • データ連携・ルールに基づく運用の試行、改善点の議論 • データ連携基盤の活用方法、継続的に運用していくための仕組みの議論（費用分担、等）

6. 作業部会構成案と役割分担

<table>
<tr><th>事業者</th><th>主な役割</th><th>連携予定状況</th></tr>
<tr><td>北陸鉄道</td><td rowspan="4">・交通課題の提案
・（課題に応じて）交通関連データの提供
・交通課題に対して可視化・分析手法の議論
・可視化・分析結果の議論
・データ共有・活用に向けたルールについて議論
・MaaS施策モニタリング結果に関する評価・議論
・データ統合基盤の継続的な運営に向けた議論</td><td>内諾済</td></tr>
<tr><td>西日本旅客鉄道</td><td>内諾済</td></tr>
<tr><td>西日本 ジェイアールバス</td><td>内諾済</td></tr>
<tr><td>日本海コンサルタント</td><td>内諾済</td></tr>
<tr><td>金沢市</td><td>・交通政策に資するデータ活用の在り方の検討
・上記に必要なデータ提供・活用の呼びかけ
・（課題に応じて）交通関連データの提供
・データ統合基盤の利用・管理</td><td>内諾済</td></tr>
<tr><td>MaaS Tech Japan</td><td>・データ統合基盤の提供・運用
・各種交通データのデータ統合基盤への投入
・作業部会の開催・運営</td><td>（提案者）</td></tr>
</table>

7. プロジェクトに関する留意事項

- すべての移動関連データがSeeMaaSに投入できるわけではありません。可視化に必要な項目が揃っていることが必要条件となりますので、データご提供時に確認を行い、必要に応じてデータ提供事業者に項目の追加・データ補正等をお願いする場合があります。
- SeeMaaSで可視化された情報や分析結果が必ず何らかの施策に繋がるとは限りません、また、その結果を保証するものでもありません。
- SeeMaaSでは、金沢MaaSコンソーシアム以外から得た外部サービスのデータを利用する場合があります。これら外部サービスから取得されるデータを利用する場合、データについての取り扱いは外部サービスの利用規約に従うことになり、別途利用規約への同意や使用申込が必要となります。
- 外部サービスから取得されるデータについて、MaaS Tech Japanは知的財産権その他の権利を有するものではなく、また、外部サービス及び当該データについて何らの保証を行うものでもありません。
- 弊社は、データに基づくより良い施策の実施と事業者間連携による移動利便性向上により、市民生活が豊かなものとなることを目指しています。そのための基盤づくりへの貢献と、弊社プロダクトの有効性をご確認いただくため、今年度中（2022年10月～2023年3月）は、施策へのデータ活用と事業者間連携に必要と考えている基本機能については、無償でご提供する予定です。それ以降の利用は協議により費用負担を検討させていただきます。
- SeeMaaSに投入し可視化された移動関連データは、原則的に金沢 MaaS の基本理念（規約　第3条）に従う目的で、本プロジェクトの作業部会メンバーが活用することを想定しています。ただし、他のコンソーシアム参加事業者（正会員・オブザーバ）から参照の申し出があった場合は、作業部会メンバーや幹事会と協議の上、提供することを想定しています。
- 移動関連データに関する一部の指標・グラフ等は、持続可能な交通ネットワークの構築を目的とした全国の自治体、交通関連事業者に向けて共有する場合があります。共有の範囲、条件、共有開始時期　等はプロジェクトを通して金沢MaaSコンソーシアム内にて検討させていただきます。

MaaS Tech Japan

持続可能な交通ネットワーク構築に向けたデータ連携基盤の検討部会規程

（趣旨）

第１条　この規程は、金沢ＭａａＳコンソーシアム規約（以下「規約」という。）第13条の規定に基づき、金沢ＭａａＳコンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）として検討するプロジェクト（以下「プロジェクト」という。）の作業部会に関し、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第２条　持続可能な交通ネットワーク構築に向けたデータ連携基盤の検討部会（以下「本部会」という。）は、コンソーシアムが今後優先して検討すべき事項のうち、Ｅキャッシュレス化の推進・データ利活用に関し検討することを目的とする。

（検討事項）

第３条　本部会は、次に掲げる事項を検討する。

(1) 地域交通の現状・課題の把握、MaaS関連施策のモニタリング・効果検証に必要な、データ統合基盤の要件、データ、可視化・分析手法に関すること。

(2) データ統合基盤で複数事業者及び自治体がデータの共有と活用を行うために必要な要件と運用ルールに関すること。

(3) 上記のほか、「持続可能な交通ネットワーク構築に向けたデータ連携基盤の検討」に関し、本部会が必要と認める事項

（組織）

第４条　本部会は、部会長及び部会員で組織する。

２　部会長は、規約第13条第３項の規定に基づき、（株）MaaS Tech Japan 取締役CSO/プロダクト開発統括をもって充てる。

３　部会事務局は、（株）MaaS Tech Japanに置く。

４　部会事務局に部会事務局長を置き、（株）MaaS Tech Japan プロダクト開発シニアマネージャーをもって充てる。

５　部会員は、北陸鉄道（株）、西日本旅客鉄道（株）、 西日本ジェイアールバス（株）、（株）日本海コンサルタント、金沢市で構成する。

（所掌事務）

第５条　部会長は規約第13条第３項各号に規定する事務を所掌する。

２　部会事務局長は、次に掲げる事項を所掌する。

(1) 会議運営事務及び庶務に関すること。

(2) 部会事務局の運営に関すること。
(3) 前２号に掲げるもののほか、本部会の運営に関し必要な事項

（報告）

第６条　規約第13条第８項の規定に基づく幹事会から報告の要請があった場合には、規約同条第９項に基づき、速やかに報告しなければならない。

附　則

この規程は、令和4年９月29日から施行する。

のりまっし金沢を活用したＰ&R 利用促進

【名鉄協商㈱】

『のりまっし金沢を活用したP＆R利用促進』プロジェクトについて

共同提案者：名鉄協商(株)・北陸鉄道(株)・(株)ホクリクコム

【プロジェクト内容】

のりまっし金沢の乗車券と駐車券をセットにしたP＆Rチケットの販売を実施する。

第1弾として四十万駅で名鉄協商(株)が運営している月極駐車場の一部を対象に検討。

【プロジェクトの狙い】

①P&Rの利用促進による市街地への車の流入を減少

②北陸鉄道石川線の利用促進

③のりまっし金沢の利用促進

【事業計画】

①事業期間：2023年度上期を目指す

②概算費用：750,000円

【運用について(例)】

(株)ホクリクコムにて新たなチケットのシステム作成を行う。販売枚数は対象駐車場の駐車枠の空き状況に応じて販売。

チケットを購入したお客様に利用方法をメールにて送信する。

駐車利用は当日(乗車券利用日)のみ有効。駐車料金は乗車料金＋100円を予定。

【事業スキーム（例：四十万駅の場合）】

①のりまっし金沢内にて乗車券・駐車券のチケットを購入

→

②四十万駅に車を駐車

※当該駐車枠にはカラーコーンを設置

→

③北陸鉄道石川線で市街地へ

のりまっし金沢を活用したＰ&Ｒ利用促進部会規程

（趣旨）

第１条　この規程は、金沢ＭａａＳコンソーシアム規約（以下「規約」という。）第13条の規定に基づき、金沢ＭａａＳコンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）として検討するプロジェクト（以下「プロジェクト」という。）の作業部会に関し、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第２条　のりまっし金沢を活用したＰ&Ｒ利用促進　部会（以下「本部会」という。）は、コンソーシアムが今後優先して検討すべき事項のうち、Ａ公共交通利便性の向上に関し検討することを目的とする。

（検討事項）

第３条　本部会は、次に掲げる事項を検討する。

のりまっし金沢を活用したＰ&Ｒ利用促進　に関すること。

（組織）

第４条　本部会は、部会長及び部会員で組織する。

２　部会長は、規約第13条第３項の規定に基づき、　名鉄協商株式会社パーキング北陸営業部　部長をもって充てる。

３　部会事務局は、　名鉄協商株式会社北陸支店　に置く。

４　部会事務局に部会事務局長を置き、　名鉄協商株式会社　パーキング北陸営業部　部長　をもって充てる。

５　部会員は、　名鉄協商株式会社、北陸鉄道株式会社及び株式会社ホクリクコム　で構成する。

（所掌事務）

第５条　部会長は規約第13条第３項各号に規定する事務を所掌する。

２　部会事務局長は、次に掲げる事項を所掌する。

(1) 会議運営事務及び庶務に関すること。

(2) 部会事務局の運営に関すること。

(3) 前２号に掲げるもののほか、本部会の運営に関し必要な事項

（報告）

第６条　規約第13条第８項の規定に基づく幹事会から報告の要請があった場合には、規約同条第９項に基づき、速やかに報告しなけれ

ばならない。

附　則

この規程は、令和４年９月２９日から施行する。

新たなモビリティ導入可能性検討

【金沢市】

新たなモビリティ導入可能性検討　提案書

金沢ＭａａＳコンソーシアム　代表幹事　殿

団　体　名：金沢市
所　在　地：金沢市広坂１丁目１番１号
代表者氏名：村山　卓

このたび、金沢ＭａａＳコンソーシアムが今後優先して検討すべき事項のうち、Ｃ 新たなモビリティの実装を図るため、以下のとおり事業計画を提案する。

１．プロジェクト名	新たなモビリティ導入可能性検討
２．概要	市内の公共交通が不便な地域における移動の確保に向けて、金沢市と金沢大学高度モビリティ研究所はこれまで自動運転車両の導入における道路空間の課題、交通環境への影響の検証を進めてきた。 まずは、住民はもちろん、一定の需要を見込むことができる観光客もターゲットとした実証実験の実施、ビジネスモデルの検証など、自動運転車両等の新たなモビリティ導入可能性の検討に取り組みたい。 令和４年度においては、導入可能性のあるモビリティの調査、実証実験地域（案）の検討・選定を行う。 実証実験や各種検討・検証に当たっては、様々な業界の企業・団体の協力が必要であるため、積極的な参加を期待している。
３．期間	令和４年 11 月～令和５年３月
４．概算費用	―
５．費用負担の考え方	参加企業・団体には検討の場に出席いただくほか、検討に資する技術・情報等をご提供いただきたい。

６．部会長	金沢市都市政策局担当次長(兼)交通政策課長　近藤陽介
７．部会事務局	金沢市都市政策局交通政策課
８．その他	
９．担当者	氏名：佐藤
	部署：交通政策課
	役職：主査
	勤務先住所：金沢市広坂１丁目１番１号
	電話番号：076-220-2038
	ＦＡＸ番号（任意）：076-220-2048
	メールアドレス：satoh_y@city.kanazawa.lg.jp

新たなモビリティ導入可能性検討　事業概要

１．新たなモビリティ導入のコンセプト

金沢市における新たなモビリティの導入意義

●金沢市内の公共交通が不便な地域・エリアにおける自動運転車両などの新たなモビリティによる移動の確保及びバス運転士不足への対応

新たなモビリティの導入に向けた可能性検討

①目的

●これまでは、自動運転車両の導入における道路空間の課題、交通環境への影響を検証

●実証実験などを実施し、新たなモビリティ導入可能性の検討、ビジネスモデルの検証を実施

②導入可能性検討の考え方

【ターゲット】

●まずは、住民はもちろん、一定の需要を見込むことができる観光客もターゲットとする

●既存の公共交通と競合しないよう、観光拠点まで既に来ているが、そこからの交通手段が脆弱なため観光客の周遊が進んでいないエリアを中心に検討する

【実現したい姿】

●新たなモビリティの導入により、一定の採算性の確保が可能であり、持続的な運行ができるモデルの構築を目指す

【必要となる交通環境】

●新たなモビリティの走行が可能な交通環境

●歩行者との錯綜が少なく、安全性が確保できる交通環境

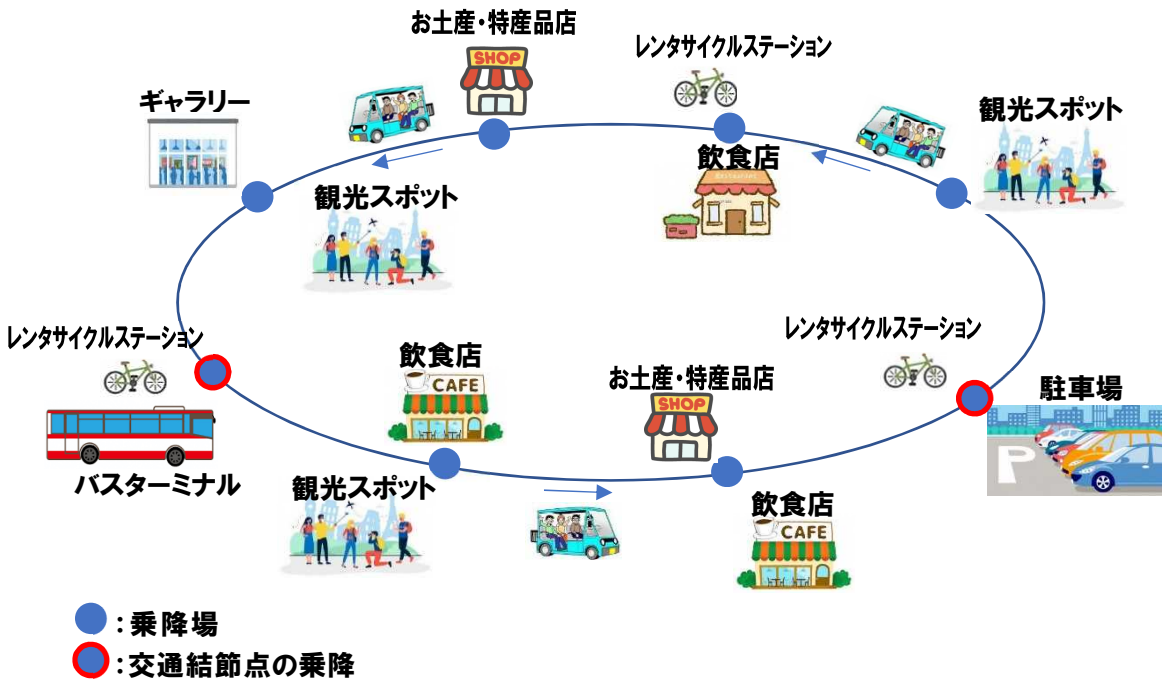
●路線バス等、既存の公共交通との競合が少ないルート設定

【想定される対象地区】

●例えば、交通結節点、観光スポット等を周遊できる郊外

※イメージ　国土交通省資料より

2. 実証実験の運行イメージ



3. 参加団体・企業の役割（想定）

金沢市交通政策課、金沢大学高度モビリティ研究所（協力）、株式会社計画情報研究所 上記ほか、様々な知見・技術を保有する団体・企業の参加を期待する。

4. 概算事業費・費用負担

〔概算事業費〕―

〔費用負担〕　参加企業・団体には検討の場に出席いただくほか、検討に資する技術・情報等をご提供いただきたい。

5. スケジュール

Ｒ４．11～３月　導入可能性のあるモビリティの調査、実証実験地域（案）の検討・選定

新たなモビリティ導入可能性検討部会規程

（趣旨）

第１条　この規程は、金沢ＭａａＳコンソーシアム規約（以下「規約」という。）第13条の規定に基づき、金沢ＭａａＳコンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）として検討するプロジェクト（以下「プロジェクト」という。）の作業部会に関し、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第２条　新たなモビリティ導入可能性検討部会（以下「本部会」という。）は、コンソーシアムが今後優先して検討すべき事項のうち、Ｃ新たなモビリティの実装に関し検討することを目的とする。

（検討事項）

第３条　本部会は、次に掲げる事項を検討する。

(1) 新たなモビリティ導入可能性に関すること。

(2) 上記のほか、「新たなモビリティの実装」に関し、本部会が必要と認める事項

（組織）

第４条　本部会は、部会長及び部会員で組織するほか、金沢大学高度モビリティ研究所の協力を得て運営及び実施するものとする。

２　部会長は、規約第13条第３項の規定に基づき、金沢市都市政策局交通政策課長をもって充てる。

３　部会事務局は、金沢市都市政策局交通政策課に置く。

４　部会事務局に部会事務局長を置き、金沢市都市政策局交通政策課長をもって充てる。

５　部会員は、金沢市及び株式会社計画情報研究所で構成する。

（所掌事務）

第５条　部会長は規約第13条第３項各号に規定する事務を所掌する。

２　部会事務局長は、次に掲げる事項を所掌する。

(1) 会議運営事務及び庶務に関すること。

(2) 部会事務局の運営に関すること。

(3) 前２号に掲げるもののほか、本部会の運営に関し必要な事項

（報告）

第６条　規約第13条第８項の規定に基づく幹事会から報告の要請があった場合には、規約同条第９項に基づき、速やかに報告しなければならない。

附　則

この規程は、令和4年９月29日から施行する。